



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈祷会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630



◎石叫■

「デクノボーになりたい」

『いのちのことは』8月号(二〇一四年)に「福祉と福音」というタイトルで、同志社大学社会学部教授の木原活信氏が記した投稿が目についたので。

「雨にも負けず」で有名な、宮沢賢治のあの時の結び言葉を「存知であろうか。それは、「日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなに『デクノボー』と呼ばれ 褒められもせず 苦にもされず、そういうものにわたしはなりた」と結んでいる。「デクノボー」(木偶坊)とは身体が大きいだけで「役立たずの人形」という意味であるが、奇妙なことに宮沢は「そういうものになりたい」と言うのである。宮沢の理想の境地、それは「デクノボー」であった。

このモチーフになった人物が、宮沢の友人であり、斉藤宗次郎という実在する一人の無名のキリスト者であった。彼は、内村鑑三の影響を受け、信仰を貫いたため、冷遇され、失職し、不遇な生涯を送った。不器用で、誰からも賞賛されることもないが、常に困窮する人に与え尽くす人物であった。宮沢の理想の人物は、偉大な英雄ではなく、「誰からも褒められない」ような役立たずのデクノボーという「ウドの大木」と言われ、蔑視されるような人物であった。

「悲しみの人で病を知っていた」(イザヤ五三・3)とは、イエスの「打ち傷」を指す。それが平安をもたらす源泉という確信から、ヘンリー・ナウエン(ハーバード大学教授を辞してトロントの重度障害者のケアを担った)は、これを「創造的弱さ」と呼んだ。彼自身、マイノリティとしての苦悩と鬱病を患った経験を通して、援助者の強さよりも、弱さこそ苦しむ人に平安をもたらす源泉になると述べた。「長い訓練を経て、人間の行動を理解する高度なレベルに達した人は大勢いるが、人のために自分のいのちをも捨て、自分の弱さを創造の源泉にする人は少ない。多くの個々人にとって、専門的訓練は力を意味する。しかし、上着を脱いで友の足を洗う奉仕者は、力なき者であり、その訓練と養成は、自分の弱さを恐れずに直視し、それを他者のために役立てることができるとを意味する。この創造的弱さこそ、奉仕者にはずみを与えるのである」。

主イエスはさげすまれ、人々からのけ者にされた人物であり、まさにデクノボー的な生き方をされたのであった。だが、それこそが、人々を救いに導いたのである。自らへりくだり、天のみ位をも捨て、十字架について命までも捧げて下さったお方なればこそ、私たちの頑なな心を開くことができるのである。このデクノボーと呼ばれる人に、私もなりたいたい、否、ならせたい。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

